



どうむ  
ギャラリー童夢企画展 報告書 第1号



ギャラリー童夢企画展 報告書 第1号  
平成18年3月 日  
発行 わらべ館  
鳥取市西町3丁目202  
TEL 0857-22-7070  
印刷 日ノ丸印刷株式会社  
鳥取市寿町915  
TEL 0857-22-2248

# ごあいさつ

わらべ館館長 神戸直樹

「ギャラリー童夢企画展」は、平成8年度から設置されていた「新着資料コーナー」での展示を更に発展させて平成14年度から始まりました。これは、わらべ館が「おもちゃとうたの文化」の拠点施設として情報発信機能を一層充実しようという考えで行われました。「わらべ館」に収蔵している資料の紹介、「おもちゃ」について独自に「わらべ館」で調査した結果の紹介、そして、コマの展示のような他館から借用した資料の紹介等、毎年4回「わらべ館」のおもちゃ担当の職員が研究・工夫をして展示してきました。

この企画展は、今年度で4年目を迎え、今までに17回の企画展示が行われております。しかし、「わらべ館」内には企画展の記録は残っていますが、報告書は作成していませんでした。報告書を作成し多くの方々に「ギャラリー童夢企画展」を紹介したいという念願がようやく叶い、「ギャラリー童夢企画展 報告書 第1号」を発刊することができました。

「わらべ館」は、今まで以上に「おもちゃとうた」をテーマとしたミュージアムとしての機能を強めたいと考えております。今回は、その第1歩としての報告書の発刊です。今後、更に内容に工夫を加え、充実したものにしていきたいと思いますので、どうかご指導・ご協力をお願いいたします。

みなさまに重ねて「わらべ館」へのご支援をお願いし、「ギャラリー童夢企画展 報告書 第1号」発刊のご挨拶といたします。

## 目 次

「テディベア～100歳を超えた友だち」…………… 1～2

開催期間：平成17年3月19日（土）～6月14日（火）

「山本千恵子 和紙人形の世界」…………… 3～4

開催期間：6月16日（木）～9月9日（金）

「こま・コマ・独楽」…………… 5～6

開催期間：9月10日（土）～12月20日（火）

「戌年来る」…………… 7～8

開催期間：12月22日（木）～平成18年3月14日（火）

# テディベア

## ~100歳を超えた友だち~



展示期間：平成17年3月19日(土)～6月14日(火)

展示資料：テディベア 32点

テディベアの「テディ」とは、アメリカ合衆国の第26代大統領セオドア・ルーズヴェルト、その「セオドア」の愛称が「テディ」であることに由来すると言われています。



セオドア・ルーズヴェルト (Theodore Roosevelt)  
1858年(安政5年)～1919年(大正8年)

アメリカ合衆国第26代大統領。マッキンレー大統領の暗殺に伴い1901年(明治34年)に大統領に就任し、1904年の選挙で再任されました。日露戦争の際は、ロシアの満州進出を抑える意味で日本に対し財政面以外にも援助を行いました。日露の勢力均衡での平和を望んで、ポーツマス条約日露講和条約の締結に助力をしました。

### テディと熊の結びつき

1902年11月、大統領はミシシッピーとルイジアナに州の境界線を引くための話し合いのためミシシッピー州に来ていました。狩猟好きの大統領は、4日間のグリズリー(灰色熊)のハンティング出かけましたが運悪く1匹も仕留められませんでした。そこで供のハンターが気をきかせて、大統領のために小熊を見つけて差し出しましたが、彼は熊を撃つのを断り逃がしてやりました。

これを聞いたクリフォード・K・ベリーマンは、1902年11月16日の「ワシントン・ポスト」に「Drawing the line in Mississippi」というタイトルで風刺漫画を発表しました。このdrawには、「(境界線を)引く」と「(熊を撃つのを)断る」という2つの意味が込められており、大統領が決着をつけようとしていた州境論争のことを風刺していました。

このエピソードは、大統領の人柄を示すものとしてたちまち有名になりました。ベリーマンは漫画に風刺を込めましたが、アメリカ国民は「動物を愛するやさしい大統領」という風を受け取ったのかもしれませんが。これ以降、熊=テディというイメージが世の中に定着していき、売り出された熊のぬいぐるみと共に人気を獲得して、現在でも世界中で愛されているテディベアが育っていったのです。



掲載された風刺漫画



ホンコンベア ロマンティック  
香港限定 2,000体  
シュタイフ/1997年

テディベアの起源については、いろいろな説がありますが2つの有力な説を紹介します。

### 【アメリカ説・アイデアル社】

クマと大統領のエピソードにニューヨークで玩具店を営んでいたロシア移民のモリス・ミヒトム夫妻が目をつけ、妻のローズが作ったクマのぬいぐるみにテディベアという名前をつけて売り出しました。これが大人気となり、店は成功して後にアイデアル社という玩具メーカーになりました。大統領に手紙を送り、「テディベア」と名付けてよいという返事もらったと言われていますが、この手紙は残っていません。

### 【ドイツ説・シュタイフ社】

マーガレーテ・シュタイフが創業したドイツのシュタイフ社では、1902年にジョイント式の手足や首が動くクマのぬいぐるみを考案し、1903年にライプツィヒで開催された展示会に出展しました。最初は人気がありませんでしたが、最終日にアメリカのバイヤーから3,000体もの注文を受けました。もちろん、このときはまだ「テディベア」という名前ではありませんでした。こうして海を渡ったクマのぬいぐるみは、テディという名前と結びついて人気を呼び、ドイツとアメリカでベアのブームを巻き起こします。

アメリカ説・ドイツ説どちらにしてもテディという名前と結びついたからこそ人気が出たのは間違いないでしょう。どちらの説も、ベアが誕生したのは1902年で、それ以降ベアがブームになるとアイデアル社、シュタイフ社以外のメーカーも競ってテディベアを作りました。

誰も商標登録しておらず、世界中の誰もが自分の作ったクマを「テディベア」として堂々と名乗ることができます。定義もいろいろあり、「ジョイントが付いていて手足が動かないとだめ」と言う人もいれば、「クマであれば何でもよい」と言う人もいて、どれが正しいとも言えません。このようにして様々なテディベアが生まれてきたのですが、この多様性が100年を超えた今でも世界中で愛されつづけている理由の1つなのかもしれません。



オランダベア

オランダ限定 1,847体  
シュタイフ/1998年



テディベア

オランダ限定 1,847体  
シュタイフ/1997年



ナガノテディベア

日本限定 2,500体  
シュタイフ/1998年  
長野冬季オリンピックの記念ベア



テディベア レプリカ 1907  
限定 5,000体  
シュタイフ/1991年

ジャバンテディ シュガー  
日本限定 3,000体  
シュタイフ/1996年



フランス

フランス限定 1,500体  
シュタイフ/1998年

ギャラリーラファイエット(フランスのデパート)  
100周年記念ベア



ダイアナベア

世界限定 2,500体  
スリーソート/1998年

スリーソート社がイギリスのダイアナ元皇太子妃を追悼して発売したベア。手には、ダイアナ元皇太子妃のシンボルである白いバラを持っています。収益の一部はダイアナ元皇太子妃が総裁をしていた病院に寄付されました。

# 開館10周年記念特別展

## 山本千恵子 和紙人形の世界



展示期間：6月16日(木)～9月9日(金)

展示資料：和紙ジオラマ「なつかしいあの頃」と和紙人形など 12点

わらべ館は、平成7年7月7日の開館以来、ドイツのハーナウ市にあるヘッセン人形博物館と姉妹館交流を続けてきました。平成17年は、開館10周年及び姉妹館交流10周年にあたり、これを記念してわらべ館とヘッセン人形博物館の両方に関係が深く鳥取市で活動する和紙人形グループ「駒鳥会(代表：山本千恵子氏)」に、「子どもの遊び」をテーマにした和紙人形ジオラマの制作を依頼しました。こうして出来上がったのが、和紙人形ジオラマ「なつかしいあの頃」です。今ではもう見るのが難しくなってしまった懐かしい風景が再現されています。

### 駒鳥会

駒鳥会は、1989年(平成元年)に鳥取市で開催された「'89鳥取・世界おもちゃ博覧会」に100年前の鳥取の町並みを再現したジオラマ「タイムスリップ鳥取」を出展、閉会后、ヘッセン人形博物館初代館長のゲルトルト・ローゼマン女史の希望により鳥取市がこれを寄贈したことが縁でローゼマン女史と知り合い、ヘッセン人形博物館で和紙人形教室を行うなど、現在まで交流を続けています。また、わらべ館3階おもちゃの部屋の「おもちゃ今・昔」コーナーの前に展示している、古代から現代までの子どもの代表的な遊びを再現した和紙人形も駒鳥会の制作によるものです。



すもう



駄菓子屋



まりつき

### メンコ

地方によって呼び名が違い、他にもパッチン、ケン、ゲンジ、ウチオコシなどと呼ばれます。鳥取ではゲンジと呼ばれますが、これは明治時代のメンコにおいて源氏の武将の絵柄が多かったことに起因しているようです。



なわとび



竹馬



フラフープ



こつこつ(子盗る)

じゃんけんをして勝った順に親、子1、子2、子3・鬼と決めます。親の腰に子がつかまって1列になり、鬼は1番後ろの子を捕まえます。親は子を鬼に盗られないように両手を広げて守り、子は親の動きに合わせて動いて鬼に捕まらないように協力します。子を盗られたら、親は次の鬼になり子1が親になります。鬼だった人は列の1番最後にくっついて最後の子になります。



石けり



ままごと



紙芝居

### 和紙人形ジオラマ 「なつかしいあの頃」

71cm x 270cm にも及ぶ土台の上で和紙人形たちが、今は見られることが少なくなった懐かしい遊びを繰り広げます。因州和紙を材料に使い、メンコ、なわとび、フラフープ、石けり、まりつき、竹馬、こつこつ、すもう、ままごと、紙芝居、お手玉、駄菓子屋、輪ころがしなどをして遊ぶ子どもたちが情緒豊かに表現されています。

人形には、顔の表情がわざと描かれていません。しかし、そうすることによって、見る人それぞれの頭の中に、生き生きとした子どもたちの表情が浮かんでいきます。

### 因州和紙

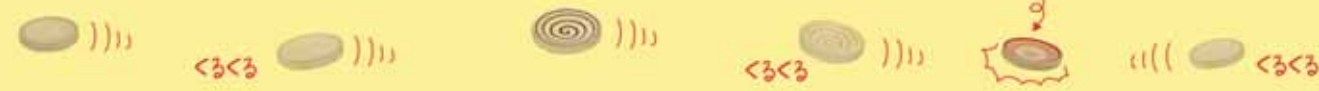
1975年(昭和50年)に国の伝統工芸品に指定された鳥取市の青谷町、佐治町を主な産地とする和紙です。本来、鳥取県東部の旧国名「因幡国」で生産される手すき和紙の総称で、その起源は1000年以上も遡ると言われています。



輪ころがし

自転車の車輪からタイヤとチューブを取り外して金属の輪にします。それに棒をあててころがします。

# こま コマ 独楽



展示期間：9月10日(土)～12月20日(火)

展示資料：独楽 52点(海外の独楽 13カ国19点を含む)

この展示は、平成17年9月17日(土)にわらべ館で開催した平成17年度おもちゃ講演会「こまのおっちゃんのコマサーカス」に関連して行い、名古屋にある日本独楽博物館の収蔵するコマをお借りして展示しました。日本独楽博物館の藤田由仁館長(こまのおっちゃん)には、おもちゃ講演会の講師を務めていただきました。

## こまはどこから

こまは、いつどこで生まれたのでしょうか。これはとても難しい問題です。現在、残っている最古のコマは、エジプトで発見された紀元前2000年～1400年の木を削って作られたコマだと言われています。

しかし、もっと簡単に作れるコマならどうでしょうか。例えば、木の実に棒をさしたようなコマだともっと以前に作られたのではないのでしょうか。コマの原理は簡単なので、世界中の誰もが考えつくはず。ですから、一番最初のコマがいつどこで作られたのかを決めるのは難しいのです。

日本でも、奈良県藤原宮跡から7世紀ごろのものと思われる木製のコマが出土していますが、先に述べたような単純なコマは、もっと前に考えられていたはず。

## 独楽という名前

「独楽」という言葉が登場する最も古い文献は、『倭名類聚抄(931～938年)』と言われています。そこには、独楽の説明として

「辨色立成云、獨楽、有孔者也」 訳：『辨色立成』という本によれば「獨楽」と言い、孔があるもの

と書かれていて、「都无求里(つむくり)」や「古末都玖利(こまつくり)」とも呼ばれているという説明もあります。

独楽は私たちにとって、馴染み深いものですが、とても歴史が古く、その発生や名前の由来については諸説さまざま、意外と謎が多いのです。

倭名類聚抄(わみょうるいじゅしょう)：源順(みなもとのしたごう)が編纂した辞典。漢語と万葉仮名で書かれており、意味分類(ジャンル別)になっています。



バレエコマ / フランス

ギザギザのついた引き棒で、中の歯車を回転させてまわすギアコマです。ペイブレードも同じ方法でまわります。

コマとひとくちによっても様々なものがあり、まわし方：ひねる、投げる、蹴る、叩くなど  
まわり方：色が変わる、追いかける、跳ねるなど  
あそび方：曲芸をする、どこに止まるか当てるなど  
によって分類することが出来ます。  
例えば、一寸法師は糸を引っ張ってまわすので「糸引きコマ」に分類できますし、まわると遠心力で中から別のコマが飛び出してくるので「飛び出しコマ」に分類することも出来ます。

## 一寸法師 / 神奈川県

糸を引いてまわすと、コマがまわります。  
持ち上げると鬼の顔が割れて、中にお椀に乗った一寸法師がいるのが見えます。  
一寸法師と一緒にまわっており、しばらくすると外に飛び出してきてまわります。



## 文福茶釜 / 熊本県

いくつかのコマを組合わせて景色や動物などを作る組合わせコマです。



## ヤシの実コマ / パプアニューギニア

ヤシの実でできたコマで、ひもを巻きつけ投げてまわす投げコマです。



## 当てコマ / 宮城県

コマをひねってまわすひねりコマですが、止まったときに心棒がどれを指すか当てて楽しめます。



## べべんちょ / 大分県

「べべんちょ」は、肩車という意味です。手のひらで心棒をはさんで揉むようにしてまわすもみコマで、下のコマをまわしたあとに、上に乗せます。

## 追いかげコマ / 福島県

手のひらで心棒をはさんで揉むようにしてまわすもみコマです。まわしたコマの上に、小さなお皿を乗せると、摩擦で追いかけて追いついたりします。





展示期間：12月22日（木）～平成18年3月14日（火）

展示資料：全国の戌の郷土玩具 100点（31都府県）

郷土玩具は、各地の伝統、生活習慣や信仰などを反映して生みだされた郷土独自のものです。玩具と名前がついていても、子どものおもちゃとして与える以外に、災難から逃れ、我が家の安泰や子どもの健やかな成長を願うといった目的を持ったものもあります。このように、人々の祈りや願いが込められているのも郷土玩具の特徴の一つと言えます。

干支の郷土玩具は、新たな年を迎えるにあたっての縁起物が多いですが、干支だからということではなくもともと犬をモチーフに作られた郷土玩具もあります。例えば、タイトルのデザインに使用している犬張子（江戸張子／東京都）は、子どもが生まれたことを祝うもので、孫のお宮参りのお祝いなどに贈られたりするようです。

年賀切手と干支

年賀切手は、1935年（昭和10年）に初めて発行されました。その後、中断がりましたが、1948年（昭和23年）に復活し、毎年発行されてきました。

1954年（昭和29年）、福島県の「三春張子」や長崎県の「鯨の潮吹き」など各地の有名な郷土玩具が初めてデザインに採用され、6年間発行されました。

1960年（昭和35年）の子年から、干支の郷土玩具をデザインした年賀切手が発行されるようになりました。昭和47～50年はデザインに採用されず

2005年に2006年の年賀用として発行された年賀切手には、宮崎県宮崎市佐土原町（さどわらちょう）で作られている佐土原土人形が採用されました。

（写真：右）



戌 山陰十二支／鳥取県

鳥取県の郷土玩具も年賀切手のデザインに採用されたことがあります。1964年（昭和39年）の辰年用の年賀切手に鳥取県岩美郡岩美町（いわみちょう）の「おくら屋」さんが作る山陰十二支が採用されました。

パーツはるくる挽きで作られていて、全体的に丸くかわいらしい形をしています。中と大サイズのものはその年しか作らないので、12個そろえるのは12年かかる計算になります。全国的にファンが多く、他県からも購入のためわざわざ足を運ぶ方もおられます。（写真：左）

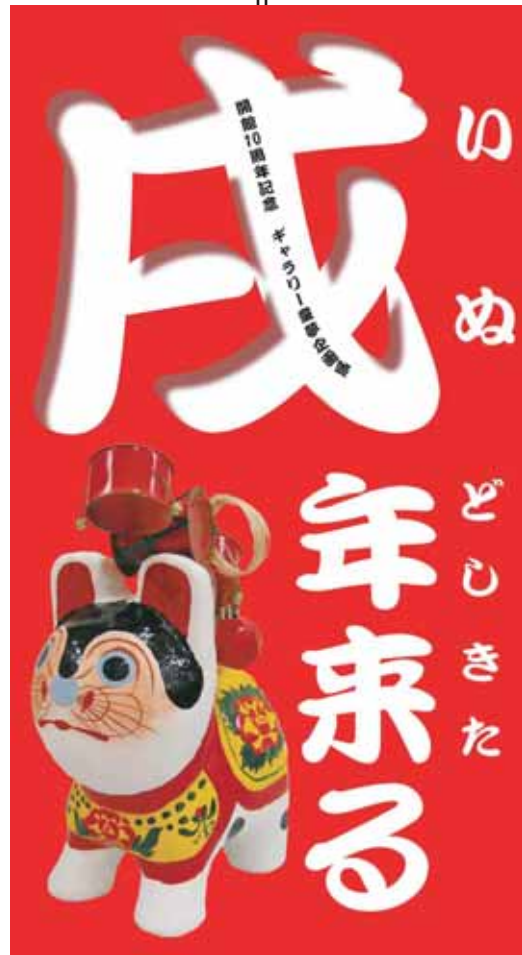


守り犬 法華寺／奈良県

1970年（昭和45年）の戌年用の年賀切手のデザインに採用されました。



戌 きびがら細工／栃木県



笑笑笑

ざる被り犬 江戸張子／東京都（写真：左）

犬張子がざるを被っているという、ちょっと変わった格好の「ざる被り犬」には、いくつかの言い伝えがあります。

赤ちゃんがぐずったり、ひきつけを起こすことを「疳の虫が起きた」と言いますが、その虫をざるですくいとってしまう「虫封じ」のおまじない。ざるで水をすくっても通り抜けてしまうので、寝ている子どもの上に吊るしておく「鼻づまり」が治るというおまじない。

ざるは竹で出来ているので、ざる=竹。犬がざるを被っているの、「犬」の上に「竹」を乗せませう。そうすると「笑」という字に似ているので、笑いの絶えない家庭になりますようにという洒落のきいた願いが込められています。



干支 戌 笹野一刀彫／山形県



戌起き上がり 大阪張子／大阪府

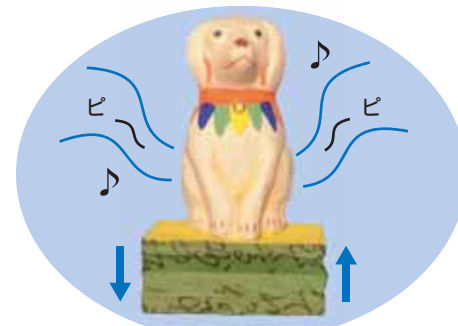
古まいぬ 吉備津神社／岡山県（写真：右）

岡山県岡山市にある吉備津神社で授与されている「吉備津のこまいぬ」は、立ち犬、座り犬と鳥の3匹が1セットの手捻りの土人形です。

神社には、吉備の国の賊を退治した大吉備津彦命（おおきびつひのみこと）が祭られていて、部下の犬飼氏、鳥飼氏を可愛がったことから、吉備津神社は犬、鳥と縁が深いとされています。また、国の重要文化財に指定され、本殿に安置されている「こまいぬ」には、火難盗難を防ぎ、子どもの夜泣きなどに霊験があるという言い伝えがあり、これにちなんで作られたようです。「とり」は、食事の時にお膳の上に置くと喉につまらぬと言われているそうです。



手捻り（てびねり）：土人形を作るとき、粘土を型に入れて形を作るのではなく、塊を手で捻ったり、引っ張ったりして形を作る方法。



びいびい 戌 今戸土人形／東京都

犬の乗っている台がふいごのようになっていて、上下に動かすとピーピーと音が鳴ります。



狎 古賀土人形／長崎県



はりこ戌 出雲張子／島根県



犬車 浜松張子／静岡県



赤赤鈴 能古見人形／佐賀県

嫁入り人形 高松土人形／香川県（写真：左）

香川県の高松市で作られている高松土人形や高松張子の中には「嫁入り人形」というものがあります。

高松地方には、嫁入りの際に花嫁は、嫁入り道具として小さな土人形を持参し、近所の子どもに与える風習がありました。土人形を配っていたのは大正頃までで、張子製のものへと移り変わっていきました。

嫁入り人形のデザインは、鯛鯛、大黒、戎、天神、福助などの縁起物で、数十種類にも及びます。



座り狎 常石張子／広島県